



銅—ニッケル—錫合金条

米アメテック、日本で販売

銅—ニッケル— 合金条 代替需要に照準

分析機器や計測機器を製造する米アメテック社(本社：ペンシルバニア州)の金属材料部門は、日本で銅—ニッケル—錫合金条の販売活動を開始した。米国の工場で製造し、日本の販売代理店を通じて販売する。国内メーカーでは三菱電機メテックスが同じ

合金を造っているが、同社が事業撤退を表明したことでその代替需要を狙う。

非鉄材料は主に米国や欧州で販売しており、日本での販売実績はこれまでほとんどないという。

販売代理店のアイ・エフ・アール(本社：東京・南青山)を通じて、今月より日本での販売活動を開始した「Pfinodal(C72900)」は、ニッケル14.5—15.5%、錫を7.5—8.5%加えた銅合金。通常の伸銅メーカーのように熱間圧延ではなく、粉末からの焼結により素条を造り、冷間圧延を経てコイル製品に仕上げる。

銅—ニッケル—錫合

金は、銅合金の中でも強度が非常に高い機能材料。衝撃への耐久性にも優れるため、モバイル機器のカメラ機構部品など、小型で耐久力が求められる部位に使用される。

国内では三菱電機メテックスが「MX」シリーズとして国内で製造販売してきた。しかし、同社は3月までに受注を停止し、9月を

めどに生産終了する。米特殊銅合金メーカーのマテリオンも販売子会社のマテリオンフラッシュジャパン(本社：東京都千代田区)を通じて銅—ニッケル—錫合金「BF158」の日本での販売実績を重ねてきたが、三菱電機メテックス撤退を受けさらなる販売強化を打ち出している。